

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成29年11月9日 (2017.11.9)

【公開番号】特開2017-10913(P2017-10913A)
 【公開日】平成29年1月12日 (2017.1.12)
 【年通号数】公開・登録公報2017-002
 【出願番号】特願2015-128622(P2015-128622)
 【国際特許分類】

H 0 1 R 31/08 (2006.01)

【 F I 】

H 0 1 R 31/08 Q

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月26日 (2017.9.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

【図 1】本発明の第 1 の実施の形態に係るジョイントコネクタの断面側面図であって図 2 の I - I 線に沿った断面を示す側面図である。

【図 2】前記ジョイントコネクタの断面平面図である。

【図 3】図 1 の I I I - I I I 線に沿った断面を示す正面図である。

【図 4】前記ジョイントコネクタをフード部の側から見た背面図である。

【図 5】前記ジョイントコネクタを端子保持部の側から見た斜視図である。

【図 6】前記ジョイントコネクタの平面図である。

【図 7】前記ジョイントコネクタをフード部側から見た斜視図である。

【図 8】本発明の第 2 の実施の形態に係るジョイントコネクタを端子保持部の側から見た斜視図である。

【図 9】本発明の第 3 の実施の形態に係るジョイントコネクタの端子保持部の外端を示す正面図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 0 】

前記複数のランス 4 2 は、それぞれ、前記各端子収容室 4 1 に挿入される電線側端子 2 0 を係止（一次係止）する端子係止部を構成する。当該ランス 4 2 は、いわゆる片持ち梁状をなす。具体的に、当該ランス 4 2 は、図 4 及び図 5 に示されるように、前記端子収容室 4 1 を画定する壁の一部とつながる基部と、その反対側の端部である先端部と、を有し、当該背先端部が前記電線側端子 2 0 の軸方向と直交する方向（図 1 では下方向）に撓み変位するように、ランス 4 2 が弾性変形することが可能である。当該ランス 4 2 は、前記先端部が前記電線側端子 2 0 から退避する向き（図 1 では上向き）に撓み変位することにより、前記端子収容室 4 1 内に前記電線側端子 2 0 が挿入されるのを許容する一方、前記電線側端子 2 0 が当該端子収容室 4 1 内に完全に挿入された状態で一部弾性復帰することにより、当該電線側端子 2 0 を前記端子収容室 4 1 内に係止（一次係止）する。具体的には、当該ランス 4 2 の前記先端部がその挿入された電線側端子 2 0 の適当な部位（図 1 の

例では電気接触部 2 4 の中間部位) と係合して当該電線側端子 2 0 の離脱を阻止する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

このリテーナ 6 0 は、図 1 に示される係止位置であって前記係止突起 6 2 が前記電線側端子 2 0 を係止する係止位置と、当該係止位置から着脱方向（この実施の形態では前記電線側端子 2 0 の軸方向と直交する方向；図 1 では下方方向）に外れた通過許容位置と、の間で移動可能であり、前記通過許容位置では、前記各窓 6 1 が対応する前記端子収容室 4 1 の他の部分と合致することにより、当該窓 6 1 を前記電線側端子 2 0 の電気接触部 2 4 が通過して（つまりリテーナ 6 0 を貫通して）前記第 1 雄端子部 3 4 A ~ 3 4 C に嵌合されることを許容する。